

岡山県高野連トップを突き動かすのは「恩返し」の気持ちだという。芳泉高OBの元球児は「野球を通じて多くを学び、成長した。高野連や選手、地域のために何ができるか考え続けたい」と穏やかに語る。

今春から玉野高校長。

これまで赴任した玉野や邑久、天城、光南の各高校では主に部長などの裏方を務めた。「主力として試合に出られない子にも達成感を味わってほしい」。そんな思いから打撃投手らチームを支える控え選手にも心を砕いてきた。

原点は、思うように体

## 岡山県高野連会長になった

ときめき

ふじわら おさむ

藤原 修さん



## 子どもが憧れる選手育成

が動かなくなる「イップス」に苦しんだ高校時代にある。三塁手で先発した3年夏の岡山大会準々決勝。序盤だけで3失策を犯し、チームは大敗した。試合後、仲間は一言も責める

ことなく、指導者も温かく見守ってくれた。「一人で戦うのではなく皆で支え合えるのが野球」。岡山大会でも競技を続け、イップスを克服。中国六大学野球のベストナインに選ばれた。

た。

球児の将来を見据えた球数制限の導入や、今春の選抜大会から採用された「継続試合」など高校球界はいま変革期のただ中にある。「試合に勝つことも大切だが、選手が人間力を磨き、なりたい自分に近づくための指導を最優先に考えなければならぬ」。地域の子どもたちが憧れる存在を育成することが球界発展につながると信じている。

趣味は読書と韓国ドラマ鑑賞。岡山聾（ろう）学校で勤務した経験から手話もこなす。岡山市内の自宅に妻、次男と暮らす。57歳。

（田井香菜子）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。